



自然資本の利用による心豊かな社会の創造

令和5年度における活動実績・成果の概要



ネイチャー ポジティブ 発展社会 実現 拠点

人と自然が育み合う
ネイチャーポジティブ発展社会



ネイチャー
ポジティブ
成長社会実現拠点



① JST COI-NEXTプログラムにおいて、東北大学を代表とする提案「ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点（R6～R15）」が共創分野（本格型）の採択課題となった。人と自然が育み合うネイチャーポジティブ発展社会を拠点ビジョンに設定、産官学の幅広い27機関の連携のもと、国際目標ネイチャーポジティブの達成に向けた研究・社会実装・人づくりを牽引していくことが期待される。ウェブサイト - <https://www.naturepositive-hub.jp>

② 東北大学を拠点とした環境DNAによる生物多様性観測網「ANEMONE」は、全国の大学や国立研究所、行政機関、や企業との連携のもと、継続・拡大している。R5年度には意思決定機関であるANEMONE運営委員会がグリーン未来創造機構のもと設置され、観測をアジア太平洋地域に拡大する準備が進められた。また、ANEMONEを支援するANEMONE DB基金への寄付金は1,000万円を超えた。ウェブサイト - <https://anemone.bio>

③ 環境DNA観測を利用してネイチャーポジティブを目指す産官学の任意団体「ANEMONEコンソーシアム」は、2022年の設立後、参画機関を増やしながら毎月のオンラインサロン、部会での活動を中心に着実に成長している。2023年11月には、Forbes Japanにより「日本発ネイチャーポジティブに資する50社」に選出された。

④ 南三陸町における自然クレジットの創出事業に加え、神奈川県の水源地である相模川・酒匂川での自然再生事業評価、高知県安芸市や千葉県我孫子市での企業等と連携した自然共生サイト観測など、自治体や企業と連携した様々なネイチャーポジティブ事業・共同研究を実施した。

⑤ 笹川平和財団 Ocean Shotプログラムにおいて、東北大学を代表とする研究課題「Holistic Genomic Approach to Asia-Pacific Marine Biodiversity（R6～R8）」が採択された。DNA情報を用いた海洋における新種の発見、種の分布境界の特定など、海洋生物多様性の理解を大きく前進させることが期待される。